



# KYOTO NATIONAL MUSEUM

2023 April to June vol. 218

親鸞聖人生誕八五〇年  
特別展

親鸞—生涯と名宝

特集展示

新収品展

特集展示

茶の湯の道具

茶碗



京都国立博物館  
だより

二〇二三年  
四・五・六月号



# 親鸞—生涯と名宝

【親鸞聖人生誕八五〇年特別展】

3月25日(土)～5月21日(日)

前期展示：3月25日(土)～4月23日(日)  
後期展示：4月25日(火)～5月21日(日)

※会期中、一部の作品は右記以外にも展示替えを行います。

【平成知新館】

二〇二三年は浄土真宗を開いた親鸞聖人(一七三〇～一三二六)の生誕八五〇年にあたります。京都で生まれ、越後に流罪となり、関東へ赴き、京都へと戻り住して、その九十年の波乱の生涯と教えは、今も多くの人を魅了して止みません。

「他力本願」「悪人正機」「善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや」「親鸞は弟子一人ももたずさうらう」「非僧非俗」などの言葉で知られる親鸞。聖徳太子が阿彌陀仏の化現として礼拝した、ドイツの哲学者ハイデガーが「こんな素晴らしい聖者が東洋にあったことを知っていたら、自分はギリシャ・ラテン語の勉強もしなかった」と日記に記した、などの伝説を生んだ親鸞。昭和を代表する歴史小説家司馬遼太郎に「鎌倉時代というのは、一人の親鸞を生んだだけでも偉大だった」と書かせた親鸞。

本展では、そんな親鸞に自筆の著作・彫像・影像・絵巻など浄土真宗の寺院が所蔵する法宝を通じ迫ります。国宝十一件、重要文化財七十五件を含む、過去最大の出展件数を誇る八五〇回目の親鸞聖人のお誕生会に是非、お越しください。

(上杉智英)

ひと針ひと針に込められた願い



利繪阿彌陀如来像 福井・誠照寺 (3月25日～4月23日展示)



国宝 観無量寿経註 巻前 親鸞筆 京都・西本願寺 (3月25日～4月30日展示(巻替あり))

## 第一章 親鸞を導くもの

### 七人の高僧

親鸞は阿彌陀仏の救いが説かれる浄土三部経(無量寿経・観無量寿経・阿彌陀経)を信仰し、その教えを自身に伝え、つづけたインド・中国・日本の三国にわたる七人の高僧(龍樹・天親、曇鸞・道綽・善導、源信・源空)を講じています。本展では、親鸞を語る上で不可欠な阿彌陀仏と浄土三部経、そこに親鸞を導いた七人の高僧を紹介します。

若き日の親鸞の求道

## 第三章 親鸞と門弟

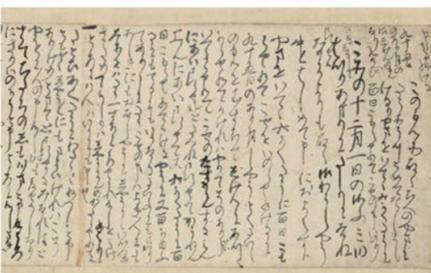
親鸞の言葉で弟子が書き留めた「歎異抄」には「弟子一人ももたずさうらう」と記されています。しかし、実際には多くの人が親鸞に帰依し、関東を中心として各地に教えを広め継承していきました。本展では、有力な門弟の坐像や、交名・一流相承系図により、親鸞の教えの広がりをうかがえます。



重要文化財 顯智坐像 栃木・専修寺 (通期展示)

紀年銘を有する  
最古の真宗僧侶像

表が綴る在りし日の親鸞



重要文化財 恵信尼書状(部分)「恵信尼書状類」のうち 恵信尼筆 京都・西本願寺 (5月2日～5月21日展示)



重要文化財 聖徳太子立像(孝養像) 茨城・善重寺 (通期展示) (写真提供：神奈川県立金沢文庫)

## 第四章 親鸞と聖徳太子

親鸞は二十九歳の時に比叡山を下り、聖徳太子の創建とされる六角堂へ百日間参籠し、聖徳太子の本地である救世観音より夢告を受けたとされます。本展では、夢告に関する法物や親鸞が聖徳太子を讃える「和讃」より、親鸞の聖徳太子に対する信仰をうかがいます。

鎌倉時代の彩色を  
今に伝える太子像

## 第五章 親鸞のことは

親鸞は阿彌陀仏の救済を人々に伝えるため執筆に励み、その活動は最晩年にまで及びます。筆跡にはその人の個性が表れ、文章には筆者の思想や人柄が否応なく表れます。本展では、親鸞自筆の著作や手紙、門弟が書写した著作や法語を紹介し、そこから親鸞その人に迫ります。

唯一無二、親鸞自筆の根本聖典



国宝 教行信証(坂東本) 親鸞筆 京都・東本願寺 (通期展示(冊替あり))

平安貴族の美意識の結晶



国宝 三十六人家集 忠見集 京都・西本願寺 (通期展示(結替・丁替あり)) 忠見集は5月2日～5月21日展示)

東本願寺御影堂の大衝立



桜花園 桜花園/松・藤花園のうち 望月玉泉筆 京都・東本願寺 (通期展示)

## 第六章 浄土真宗の名宝

### 障壁画・古筆

親鸞の教えは多くの人々を魅了し、浄土真宗は一大勢力として大きく発展を遂げました。そこには法物の他にも数多くの名宝が伝来しています。本展では中でも京都に伝来する宮廷文化の粋を極めた古筆や、京都画壇の手により華やかに堂宇を荘厳する障壁画の優品を紹介します。

## 第七章 親鸞の伝えるもの

### 名号

浄土真宗の本尊「名号」。親鸞はこれを単なる阿彌陀仏の名前ではなく、阿彌陀仏の救済のはたらきそのものとして、それを称える念仏を説きました。親鸞がインド・中国・日本の七人の高僧より受け継ぎ、九十年の生涯を賭して人々に伝えようとした名号。本展では、親鸞自筆の名号を肖像とともに紹介します。

親鸞八十三歳の風貌



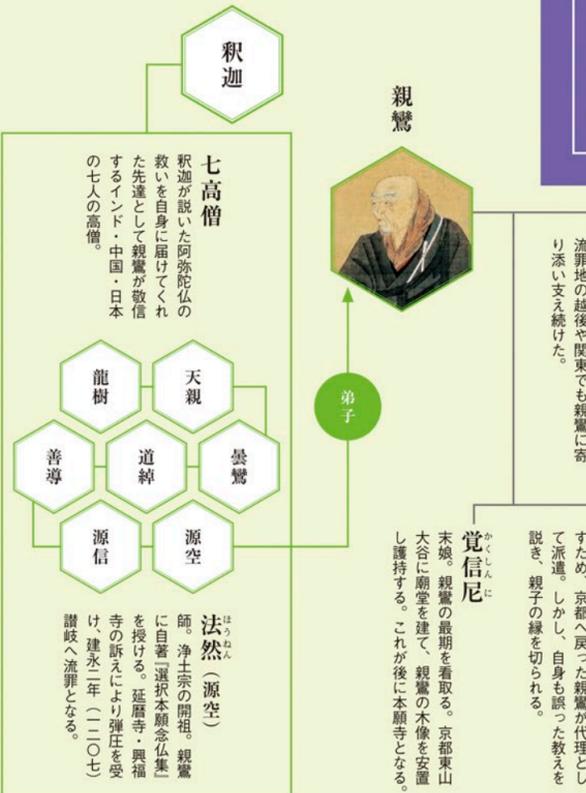
国宝 親鸞聖人影像(安城御影副本)(賛・裏書) 蓮如筆 京都・西本願寺 (3月25日～4月2日展示)

親鸞八十四歳の自筆名号



名号本尊(六字名号) 親鸞筆 京都・西本願寺 (5月2日～5月14日展示)

## 親鸞 人物相関図

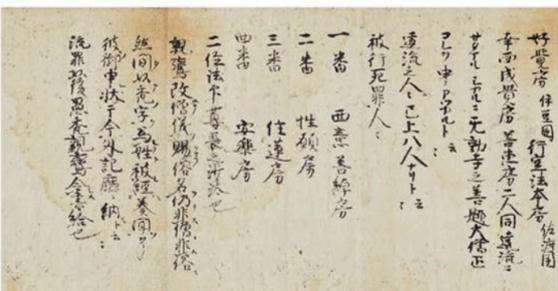


親鸞の末娘、最古の絵像



覚信尼像 新潟・福因寺 (通期展示)

現存最古の「歎異抄」



重要文化財 歎異抄 巻下(部分) 蓮如筆 京都・西本願寺 (3月25日～4月9日展示)



威厳溢れる親鸞像

親鸞聖人坐像 三重・専修寺 (3月25日～4月16日展示)

親鸞伝説の決定版、修復後初公開



重要文化財 本願寺聖人伝絵(康永本) 巻下末(往生の場面)(部分) (詞書) 覚如筆 (絵) 宗舜筆 京都・東本願寺 (5月2日～5月21日展示)

## 第二章 親鸞の生涯

親鸞の没後三十三年にあたる永仁三年(一一九五)、曾孫の覚如によって親鸞の生涯を描く絵巻物「親鸞伝絵」が制作されます。本章では、その優品により出家得度から師である法然との出会い、念仏弾圧と越後への流罪、京都での往生、大谷廟堂の成立という九十年の生涯を振り返ります。

親鸞の没後三十三年にあたる永仁三年(一一九五)、曾孫の覚如によって親鸞の生涯を描く絵巻物「親鸞伝絵」が制作されます。本章では、その優品により出家得度から師である法然との出会い、念仏弾圧と越後への流罪、京都での往生、大谷廟堂の成立という九十年の生涯を振り返ります。

【特集展示】

# 新収品展

6月13日(火)～7月17日(月・祝)

【平成知新館2F-2】

かけがえない文化財を未来に繋いでいくために、博物館が果たす役割のひとつに収集があります。それぞれの博物館にふさわしい文化財を収集することは、展示の内容を深めるとともに、研究を進展させるうえでも欠かせないものです。当館でも良質な文化財を計画的に購入しています。また篤志家の方々から貴重な文化財をご寄贈いただくこともあります。

今回は、二〇二一・二〇二二年に当館が新たに収集した絵画・書跡・工芸・彫刻のなかから、約四十点を展示します。そのなかからいくつかをご紹介します。

「北野本地絵巻断簡」は、北野天神縁起絵巻の一種で鎌倉時代の作品です。戦後に分割されており、本品は冒頭部分の詞書(卷子装)と絵(掛軸装)にあたります。白描ですが、横長の画面にのびやかな墨線で人物や花・木などを描き、広々とした情景が感じられます。北野天満宮の縁起を描いた絵巻であり、京都の地にある当館にふさわしい作品と言えるでしょう。

「住吉真景図巻」は江戸時代後期の画家、岡田半江の作品です。大阪にある住吉大社参道のにぎわいや第一本宮、神宮寺などの寺社建築、そして神域を彩る新緑の木々が繊細な筆使いとみずみずしい色彩によって描かれています。光や大気の表現が印象派を思わせるような魅力的な作品です。

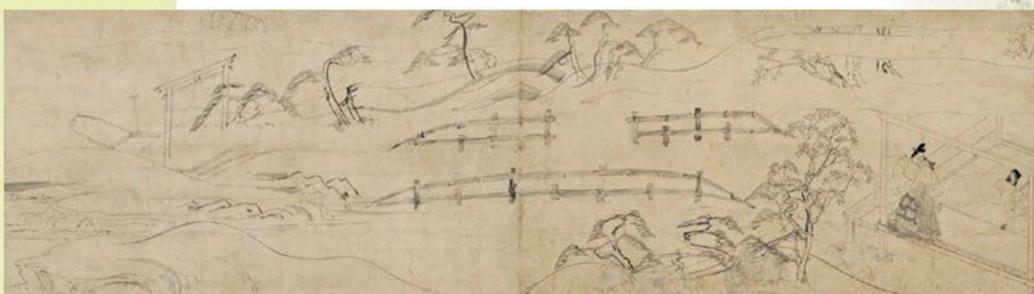
「褐袖四方茶入」は江戸時代前期の陶工、野々村仁清の作です。轆轤で円筒形に挽いた後、四方を押さえて成形したもので、その独創的な器形には江戸時代前期の好みや茶風をうかがえます。また、京焼の技法を考える上でも重要です。

このほか、江戸時代の「太刀 銘(菊紋) 和泉守来金道」や同じく江戸時代の能装束「団扇形散らし文様摺箔」など、各分野のバラエティーに富んだ文化財を展示する予定です。文化のまち、京都ではぐくまれた当館ならではの新収品展となるでしょう。

(石田由紀子)



褐袖四方茶入 野々村仁清作  
京都国立博物館



重要美術品 北野本地絵巻断簡 京都国立博物館



重要美術品 住吉真景図巻(部分) 岡田半江筆 京都国立博物館

平成知新館 名品ギャラリー

3F-1 陶磁

【特集展示】 茶の湯の道具 茶碗

6月20日(火)～9月10日(日)

※6月13日(火)から6月18日(日)まで閉室。

3F-2 考古

【縄文土器と土偶】

6月20日(火)～9月10日(日)

※6月13日(火)から6月18日(日)まで閉室。

2F-1 絵巻

【15世紀の白描絵巻】

6月13日(火)～7月17日(月・祝)

2F-2 工芸

【特集展示】 新収品展

6月13日(火)～7月17日(月・祝)

1F-1 彫刻

【日本の彫刻/地蔵と閻魔】

6月13日(火)～9月18日(月・祝)

1F-3 書跡

【古筆とかなの美】

6月13日(火)～7月30日(日)

1F-4 染織

【袷袷と名物裂―船載された染織―】

6月13日(火)～7月30日(日)

1F-5 金工

【鋳りの美―仏を飾る―】

6月13日(火)～7月30日(日)

1F-6 漆工

【豪商の蔵Ⅲ―茶室を彩る―】

6月13日(火)～7月30日(日)

※1F-2は、6月13日(火)から8月6日(日)まで閉室となります。

【特集展示】

# 茶の湯の道具 茶碗

6月20日(火)～9月10日(日)

【平成知新館3F-1】

茶の湯で用いられる茶碗は、単に茶を飲むための器というだけでなく、茶席において亭主と客をつなぐ重要な道具であり、直接手にして鑑賞することができる美術品でもあります。なかでも名碗と呼ばれる茶碗は、それ自体に風格や優美さを備えていることはもちろん、長く大切に扱われ、多くの人に賞玩されてきた歴史を持っています。それぞれの茶碗に秘められた由来や逸話は、見るものを引きつける大きな魅力となっています。

喫茶文化とともに中国から日本へもたらされた、天目や青磁、そして古染付や祥瑞といった比較的新しい時期のものも含む唐物茶碗。朝鮮半島において日常の器として焼かれたものが日本へもたらされ、室町時代末期のわび茶の流行とともに茶碗として見立てられ、茶会で用いられた高麗茶碗。また、桃山時代を中心として茶の湯が形作られるなかで、茶人の好みを反映して生み出された和物の茶碗には、唐物天目を写した瀬戸天目、自由に豊かな造形美を生み出した志野や織部などの桃山陶器、轆轤を用いず手づくねでつくられた楽茶碗、そして華麗な絵画的装飾がほどこされた、仁清に代表される京焼などがあり、茶人たちの美意識を感じることができます。

この特集展示では、茶の湯に用いられる茶碗を、大きく唐物茶碗、高麗茶碗、和物茶碗に分け、その種類や個性などについて概観します。それぞれの茶碗の魅力を感じていただければ幸いです。

(降矢哲男)

## 唐物茶碗



玳瑁天目  
京都国立博物館

中国・吉州窯で焼かれた玳瑁釉を掛けた天目形の茶碗。玳瑁釉とは、黒釉の上に黄白色の釉を振り掛け、海亀の一種である玳瑁の甲羅(鱗甲)のような不規則な斑紋を作り出したものをいう。見込みには尾長鳥のような飛鳥文が表されている。

## 高麗茶碗



御本「日本」文字茶碗  
田中陽子氏寄贈・  
京都国立博物館

## 和物茶碗



重要文化財  
黒楽茶碗 銘ムキ栗  
長次郎作  
文化庁  
千利休の創意によってつくり出された長次郎作の黒楽茶碗。四方形の胴をしており、腰から高台にかけて丸みをもつ形状は、桃山時代には他に例をみない。

## 【ミュージアムパートナー一覧】

※令和5年3月末現在  
京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広くご支援いただいています。

【ゴールド】土屋 和之

株式会社 SCREENZ ホールディングス

株式会社 俄 / NISHA 株式会社

【シルバー】学校法人 二本松学院

ブロンズ 原田清朗

## 【キャンパスメンバーズ】

※令和5年3月末現在

「京都国立博物館キャンパスメンバーズ」は、国立博物館と大学等との連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核として文化や歴史を共に学ぶ場を提供する会員制度です。会員である大学や専修学校の学生および職員の皆様には、当館名品ギャラリーを無料で観覧いただける機会などさまざまな特典を提供しています。

学校法人 瓜生山学園 / 追手門学院大学 /

国立大学法人 大阪大学 / 大阪大谷大学 /

大谷大学 / 学校法人 大手前学園 /

学校法人 関西大学 / 学校法人 関西学院 /

国立大学法人 京都大学 /

学校法人 京都外国語大学 /

国立大学法人 京都工芸繊維大学 /

学校法人 京都産業大学 /

学校法人 京都女子学園 / 京都市立芸術大学 /

京都精華大学 / 京都先端科学大学 / 京都橘大学 /

京都府立大学 / 近畿大学 /

国立大学法人 滋賀大学 / 四天王寺大学 /

就美大学 / 成安造形大学 / 学校法人 大覚寺学園 /

帝塚山大学 / 学校法人 同志社 / 奈良大学 /

奈良女子大学 /

国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学 /

学校法人 二本松学院 / 花園大学 / 佛教大学 /

学校法人 立命館 / 龍谷大学

## 【寄附】

京都国立博物館では文化財とそれを守り伝えてきた先人の想いを次の1000年へと繋いでいくため、広く寄附を募っております。このたび、左記の方より寄附をいただきました。寄附の趣旨を踏まえ、大切に活用させていただきます。

寺社下 珠江 様

## 「贋作」が受容されるとき

京都国立博物館主任研究員 福士雄也

本誌190号掲載の「よみもの」として、筆者は「時を超える想い―「作品」が伝えるもの―」と題する一文を草した。寺院所蔵の文化財調査の過程で出会った伝尾形光琳筆の画卷が、疑いようのない贋作でありながらもなお、それを享受した江戸時代の人々の真摯な想いを伝える側面を有することを紹介し、美術史学における価値判断はあくまで相対的なものに過ぎないと自戒したのであった。

ところで、この作品を寺院に寄進した施主として名前の挙がる佐々木甚三郎について、二〇一八年にある研究者の方から問い合わせを頂いた。それは、大谷篤蔵・藤田真一校注『蕪村書簡集』に収録される、安永五年（一七七六）九月四日付の書簡宛先である季遊と関係はあるのかというものであった。

筆者は迂闊にも気付いていなかったが、手元の『書簡集』を繰ってみると、季遊についての注に以下の記述がある。「京都の俳人。後寄節と改号。冠芳斎閑空とも号す。嘯山門。佐々木有則。通称甚三郎。屋号桔梗屋。代々阿波侯の御用達」。桔梗屋の主人は代々甚三郎を名乗ったようだが、件の寄進者名として、佐々木甚三郎の名に続き「父閑空」とあり、「源有則印」（白文方印）が捺されているので間違いない。施主の一人は、与謝蕪村に奥の細道図巻を発売した人物だったのである。

桔梗屋は、承応年間（一六五二〜五五）頃に初代甚三郎が茜を用いて紅梅色に染める方法を発案し、甚三紅として売り出して莫大な利を得た豪商である。この初代甚三郎は女敵として斬殺されるという悲劇的な最期を迎えた人物だが（『狛平治日記』）、井原西鶴『日本永代蔵』にモデルとして登場するほか、これに着想を得た恋川春町挿図の黄表紙『甚三紅由来』も出版されるなど、

知られた分限者であった。甚三郎が北野社に寄進した灯籠は、現在も北野天満宮楼門前に見ることができるといえる。

その桔梗屋の主人をつとめるかたわら、三宅嘯山に俳諧を学んだ季遊こと佐々木有則が蕪村に制作を依頼した奥の細道図巻は、長らく江戸時代後期の模本が知られるのみであったところ、二〇二二年に発見され、当館の特集展示において初公開された。作品との出会いというのは結局偶然によるところが大きい。有則がああ伝光琳作品を寄進した人物だったというのは、個人的には非常に感慨深いものがあり、作品が媒介する縁のようなものを感じた次第である。かたや重文級の新作発見、かたや日の目を見ない贋作という対照的な扱いを受けるふたつの作品は、江戸時代中期の京都において、文字通り同じ地平で享受されていたのだ。

しかし、伝光琳筆の画卷がこれまで誰の目にも留まらなかったかという点、どうやらそうではないらしい。前稿執筆時には把握していなかったことだが、三村竹清は、京都某家に谷口香嶠による光琳画卷の模本が所蔵されていたことを報告している（『随縁聞記』）。この香嶠模本に写されている寄進銘によって、原本が件の伝光琳画卷であることは明らかである。香嶠は、明治二十一年（一八八八）に実施された臨時全国宝物取調局の文化財調査に乗り、「京都の寺院のものは、大抵見せてもらひました」（黒田譲『名家歴訪録中編』）と語っているから、おそらくこの頃に模写の機会を得たのだろう。明治二十四年に『光琳画譜』を上梓した香嶠にとって、琳派研究上の意義は小さくはなかったはずだ。その意味では、あの伝光琳作品が美術史上に果たした役割も、皆無ではないと言えるのかもしれない。

## 講座・イベント

### 《特別展「親鸞—生涯と名宝」記念講演会》

4月1日(土)「親鸞聖人伝絵の世界—覚如の絵巻制作」

京都国立博物館研究員 井並林太郎

※申込期間：1月25日(水)10:00～ 先着順

4月8日(土)「『文字』と『絵』から読み解く親鸞世界」

早稲田大学日本宗教文化研究所招聘研究員 安藤章仁氏

※申込期間：1月25日(水)10:00～ 先着順

4月15日(土)「『坂東本・教行信証』と親鸞聖人」

大谷大学教授 三木彰円氏

※申込期間：1月25日(水)10:00～ 先着順

4月22日(土)「親鸞聖人のご法物から立教開宗を聞思する」

本願寺史料研究所長、龍谷大学名誉教授 赤松徹真氏

※申込期間：2月24日(金)10:00～ 先着順

5月6日(土)「親鸞 生涯と名宝」

京都国立博物館研究員 上杉智英

※申込期間：2月24日(金)10:00～ 先着順

5月13日(土)「親鸞の手紙」

京都国立博物館列品管理室長兼美術室長 羽田 聡

※申込期間：2月24日(金)10:00～ 先着順

【時間】13時30分～15時 【会場】平成知新館 講堂

【定員】200名(予定) ※変更する場合があります。

【料金】聴講無料(ただし、講演会当日の特別展観覧券が必要)

【応募方法】展覧会公式サイト(<https://shinran850.jp>)より必要事項を入力の上、上記申込期間中にお申し込みください。

※先着順、定員になり次第申し込みを締め切ります。参加証は開催日の2週間前までにお送りします。

※聴講の際は当日の観覧券が必要です。開始時間前までにご入館いただき、講堂入口にて参加証をご提示ください。

※お預かりした個人情報、本展記念講演会の事務のみに使用します。

### 《特別展「親鸞—生涯と名宝」キャンパスメンバーズ講演会》

【講師】上杉智英(京都国立博物館研究員)

【日時】4月14日(金)15～16時 【会場】平成知新館 講堂

【参加方法】4月10日(月)までにウェブサイトよりお申し込みください。

[https://www.kyohaku.go.jp/jp/events/event/20230414\\_campus-lec/](https://www.kyohaku.go.jp/jp/events/event/20230414_campus-lec/)

### 《シンポジウム》

【テーマ】「浄土真宗を中心とした祖師信仰とその造形(仮)」

【日時】4月23日(日)13～17時 【会場】平成知新館 講堂

※参加方法などの詳細は、京博ウェブサイト、公益財団法人仏教美術研究上野記念財団ウェブサイトをご覧ください。

### 《土曜講座》

6月17日(土)「京都国立博物館の近代絵画」

京都国立博物館主任研究員 福士雄也

6月24日(土)「京都国立博物館の講座100年を振り返る

—大正13年から令和5年まで—」

京都国立博物館主任研究員 水谷亜希

※平成知新館 講堂にて13時30分～15時に開催。定員200名(予定)、聴講無料(ただし当日の観覧券等が必要)。

※当日9時30分より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第配布を終了します。

### 《令和5年度夏期講座のお知らせ》

【テーマ】転換の時代—15世紀

【開講日】7月7日(金)・8日(土) \*1日3講座、計6講座

【会場】平成知新館 講堂 【定員】200名 【聴講料】3000円(税込)

【申込方法】往復はがきに住所・氏名・電話番号を明記の上、京都国立博物館「夏期講座」係(〒605-0931 京都市東山区茶屋町527)までお申し込みください。6月5日(月)消印有効。申込人数が定員を超えた場合は抽選とさせていただきます。

## これからの展覧会

◆特集展示 日中 書の名品 8月8日(火)～9月18日(月・祝)

◆特別展 東福寺 10月7日(土)～12月3日(日)

展覧会およびイベント等の中止や延期、会期や展示期間の変更などを行う場合がありますので、最新情報については、当館ウェブサイト等をご確認くださいませよう願いたします。

## ◆名品ギャラリーの休止予定◆

特別展の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー休止期間：5月23日(火)～6月11日(日)

※名品ギャラリー休止期間中は庭園のみ開館となります。

## ご利用案内

【開館時間】<3月25日～5月21日> 9:00～17:30

<5月23日～9月18日> 9:30～17:00

\*入館は各開館の30分前まで

【観覧料】【特別展「親鸞—生涯と名宝」】

<3月25日～5月21日>

一般1800円、大学生1200円、高校生700円

\*中学生以下、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

\*キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、各種当日通常料金より500円引きとなります。

【庭園のみ開館期間】<5月23日～6月11日>

一般300円、大学生150円

\*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

\*キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

\*有料(一般のみ)にてご入館の方は、庭園ガイド冊子がございます。

【名品ギャラリー】<6月13日～9月18日>

一般700円、大学生350円

\*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

\*キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

【休館日】月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)

## アクセス

JR=京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統にて博物館三十三間堂前下車すぐ

プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分

近鉄電車=近鉄丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳

方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分

京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分

阪急電車=京都河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分

駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

\*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は120円、長3封筒は94円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町527

TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)

ホームページ <https://www.kyohaku.go.jp/>

発行日 令和5年4月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 株式会社ライブアートブックス

京都国立博物館  
KYOTO NATIONAL MUSEUM

